

ストウントレン州看護師・助産師養成校学生寮完成式典の開催

2月2日（木）、ストウントレン州の州都にて、我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じ建設された、看護師・助産師養成校の学生寮の完成式典が開催されました。このプロジェクトは、同養成校の敷地内に女子学生用の学生寮1棟（2階建10室）及びトイレ（12室）を建設し、入寮を希望する生徒に無料で居室を提供するものです。この学生寮が整備されたことにより、ラタナキリ州やモンドルキリ州といった遠隔地から同校に入学する学生達が昼夜を通じて勉学に励める環境が整備されるとともに、今後予定されている学生数の増加に備えることができることとなり、今後の同地域における保健分野の人材育成に対する質的・量的貢献が期待されます。

同式典には、大使館から黒木大使が、カンボジア側からチョー・ジンシム保健省長官、ローイ・ソパート・ストウントレン州知事、トゥック・レーンシー校長に加え、同校の学生や州保健局関係者等約650名が出席しました。

式典では冒頭、トゥック・レーンシー校長から、「2012年の学生数は673名と昨年より136名増加しており、毎年押し並べて20－29%の増加率となっているため、今回の支援は時宜に即したものである」として、感謝の意が示されました。

引き続きローイ・ソパート知事からは、「新たな学生寮を衛生的、安全に使用し維持管理に注意を払うようお願いしたい、学生の皆さんは以前の世代よりも幸運な世代であり将来幸福を手に入れられるよう勉学に励んで頂きたい、また、将来保健省の役人となる皆さんには職業倫理を持ち、病人等に対し慈悲深い心を持って頂きたい」旨述べました。

続いて、黒木大使から、「今回支援した2階建て女子寮は、入寮可能な学生数を増加させ、彼女たちの生活状況を改善するとともに経済的負担を減らすものである、同校は北東地域5州で保健サービスに従事するであろう看護師・助産師の教育において不可欠な役割を担っている、今回の支援により学生の就学環境が改善することで、同校がより多くの質の高い看護師・助産師を教育し、北東地域の住民に対する保健サービスの改善に貢献してくれることを願う」旨述べました。

黒木大使に続き挨拶を行ったチョー・ジンシム長官は、「今回のような直接地方に裨益する支援を高く評価する、本支援は学校一校のためでなく北東地域全体に裨益するものである、地震・津波の被害があったにもかかわらず日本は支援を続けてくれているが、これは日本人の善意を表すものであり、カンボジア人はそれを忘れることはない」と述べ、我が国及び国民に対し、深い感謝の意を示しました。

最後に、チョー・ジンシム長官、ローイ・ソパート知事及び黒木大使がテープカットを行い、式典は終了しました。

（次項に式典時の写真を掲載）



式典の様子



テープカットを行う黒木大使



日本の支援した学生寮



寮内の視察